

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196500795		
法人名	株式会社ふれあい広場		
事業所名	ふれあい多居夢浦和		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区元町1-32-17		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	令和3年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で外部との繋がりを持つ時間を持つ事が出来ず、外部ボランティアの受け入れやご家族との面会、地域行事などへの参加も全く出来なかったが、各スタッフが入居者様に対し少しでも楽しく過ごして頂けるよう関りの時間を設け、季節行事以外にも毎日楽しく過ごせるように工夫し笑顔や笑いの溢れるホーム作りを目指し頑張っていた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・いかに事業所内での生活を充実させるかを第一優先に取り組み、玄関に入居者の笑顔の写真を飾ったり、明るく和やかな雰囲気事業所づくりに努められている。また、日常の生活にも焦点を当て、「ふれあい便り」には入居者の自然な姿を掲載し、入居者にも家族にも満足いただけるよう取り組まれている。
 ・運営推進会議は、文書配布形式で行われ、電話で参加者と話をしたり、薬局の方との意見交換、家族からの要望などをお聞きし、外部の方々との連携が途切れないよう努められている。
 ・目標達成計画については、災害対策での地域との連携がコロナ禍で実施できなかったが、職員への防災知識の教育に取り組まれたことで、目標の達成が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケースファイルや玄関・フロア・事務所などに理念を掲示し意識共有を図っている。	入居者も職員もともに楽しめる「ゆとりのある介護」を目指した理念のもと、入居者のペースを守る「待つ介護」を心がけられている。管理者も様々な業務のフォローを行い、職員の入居者に関わる時間を増やすよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が参加していた地域行事は今年度全て中止になっており地域の方々との繋がりはなかった。管理者は電話で地域の方々との連絡を取り情報交換を行っている。	これまでは盆踊りやごみゼロ運動などには積極的に参加されていたが、現在は地域行事の中止などで関わりが縮小されている。その中で地域の支部長さんや買い物でお会いする地域の方々とは地域の情報をお聴きしたり、事業所の取り組みを伝えるなどの交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で地域行事などが全て中止になっており地域の方々との接する機会を持たず左記の項目にはなかなか取り組めなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で運営推進会議を行っていない。 4月に電話連絡を取りお話を各方面からいただき議事録にした1回のみ。	運営推進会議は、現在、文書配布形式で行われている。参加者の薬局の方との意見交換をしたり、電話で家族からの要望をお聴きすることなどを行い、それらの内容も配布資料に掲載され、参加者間の情報共有に取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議も行えず、地域包括支援センター職員や民生委員と時折情報交換をする程度であったが協力体制に関してはしっかり行っていただけになっている。	地域包括支援センターとは日常的に相談を行い、連携を図られている。行政からは感染症対策についての情報や給付金や助成金、備品の配布などについてのお知らせ対応もスムーズに実施されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設け年4回の開催勉強会の資料配布などを行い職員にも身体拘束・虐待防止の知識を共有出来るよう努めている。玄関の施錠は防犯の為10時以降実施している。	身体拘束虐待防止委員会を設け、自己点検ノートや事例検討、DVDなどを通して年4回の研修会が開催されている。言葉使いを中心に、慣れから起きる対応についてなど「不適切ケア」に特に注意を払われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設け年4回の開催勉強会の資料配布などを行い職員にも身体拘束・虐待防止の知識を共有出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この項目は知識を学ぶ機会が少なく研修や施設内勉強会にて学んでいる。今年度はホーム内勉強会で一度実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や本社マネージャーが対応しゆっくりと不安な点を確認しながらご理解いただけるよう行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度はご家族が来訪する機会がほとんどなくお電話の際にご意見をいただくよう心がけた。運営推進会議が実施出来なかった事でご家族とコミュニケーションを取る機会が少なかった。	入居者からの「自宅が心配だ」との申し出に職員と一緒に帰宅し、置いてあったお金を後見人に預けるなどの事例があり、入居者・家族の申し出にはできる、できないは別に真摯に取り組み、信頼関係の維持に努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うフロア会議時にアンケートを取ったり直接要望を聞いたりし、可能な事から意見を反映させている。	ケース会議で職員意見をアンケートで募り、普段の業務や入居者へのケアについて改善に繋がられている。慣れにより当たり前に行っていることについて皆で考え、「入居者にもっと関わるにはどうしたら良いか」の観点から業務の見直しが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績などいいねカードを渡しお互いを褒める習慣・認めていく事でやりがいが持てるようにしている。年一回昇給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修など今年度は出席する機会が無くなり、職員のケアの力量をアップしていく事に関してはいささか不十分であったと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で外部施設との交流は持てなかった。例年なら研修内のグループワークなどで他施設の意見など聞く機会が持っていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居したばかりの方は帰宅願望や不安も多くあり職員はしっかり傾聴を行い不安を解消出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にホームに対する希望や入居者様の生活に対する希望を伺いより良い関係性が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループ内の老健・特養・などご紹介したり状況に応じた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事は積極的にお手伝いをお願いし各自役割を持って生活をしていただき一緒に生活している意識を持ち過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪されたり・お電話をいただいた際入居者様の日々の様子をお伝えし良いホーム運営が出来るよう意見交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でご友人の来訪はお控えいただく対応をしているがお手紙や電話での会話をおつなぎするなどの対応を行い馴染みの方との関係性が疎遠にならぬように努めている。	以前からの入居者が新しい入居者のお世話をし、入居者同士が家事などを一緒に行うことで、仲良くなられ、新たな馴染みの関係が作られている。昔の歌や映画、DVDなどを取り入れたり、電話での会話を支援するなど、関係性が疎遠にならないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係性を様子観察しお互いが気持ち良く生活出来るよう席次を工夫したり、スタッフが間に入り会話をつなぐなど孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に訪問して下さるご家族もいて近況など伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時本人の希望やご家族に意見いただき希望に添えるようにしている。	入居者との信頼関係を築き、昔のことなどを話題にして話を弾ませ、思いを聴けるよう取り組まれている。また、入居時に家族に書いていただく「発症経過ノート」でこれまでの人生のバックグラウンドを知ることによって個々の支援に繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に今までの生活歴などお伺いしケアに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の勤務時に入居者様の様子観察を行い随時職員間で意見交換をし、フロア会議で状況を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議時や日常で気が付いたことなどを計画作成担当者や居室担当者中心に話し合いご家族や本人に要望を伺い計画作成している。	わかりやすい言葉を使用し、入居者・家族そして現場にも理解されるようケアプランが作成されている。事前の「生活満足度調査」、アセスメントを行い、入居者個々の心配事や要望を把握し、サービス内容にも反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察からケース記録で情報共有し随時介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で外部ボランティア受け入れや外に出かけて行くなどが出来ずと苦労はあった。スタッフが随時企画立案し入居者様に満足していただけるよう取り組んできた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で外部の地域資源活用は出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医に入居者様の情報提供を行い、随時状態の変化を連絡し相談・指示を頂いている。 月2回の往診時に適切な医療提供が出来るよう努めている。	入居前からのかかりつけ医への受診には家族が同行し、日常は協力医療機関の往診により健康管理が行われている。かかりつけ医受診後は家族から情報をお聴きし、薬の情報などは薬局とも相談しながら、職員への周知にも努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護職員と入居者様情報の共有を図り必要な医療対応を行っていただいたりスタッフが不安に感じている事などの相談役となっただいたりしている。入居者様は適切な看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホーム内での介護サマリー作成・提供退院時は医師、看護師、ソーシャルワーカーから情報提供をいただき安心して退院して出来る体制作りに努め医療関係者との関係性作りにも配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・訪問看護と連携を取りご家族に対して終末期の看取り同意書をいただく際に詳しく説明をさせていただきます。また職員に対し看取りの勉強会を行っている。	終末期や看取りについては、段階ごとに指針が説明され、入居者の意思を尊重しながら、家族の気持ちにも寄り添い同意を得ながら対応されている。状況に応じた対処方法が確認され、日常はどうか、夜間や緊急時はどう対応するかなどの情報共有も図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は緊急時チャート図を掲示し、研修・勉強会などで知識をつけ初期対応が出来るようにしている。緊急時医療情報パスを作成し専用バックに入れ救急隊と連携出来るようにもしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練や避難訓練を行いホーム独自の避難誘導マップを作成し職員間での周知を行っている。	建物の構造や周囲の環境に合わせた具体的な災害対策が決められている。消防署からのアドバイスをいただき、実際に玄関までの誘導を実施したり、上階からの避難方法、逃げ遅れ対策など具体的な場面に合わせた訓練も実施されている。	消防署との連携で様々なアドバイスをいただいていることから、訓練の中で、一つひとつの項目を実施してみることで課題を把握し、さらに対策を講じられることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ちその方の誇りやプライドを傷つけぬよう配慮し声掛けを行っている。	入居者個々の生活環境を把握し、笑顔になるような声掛けを行うよう取り組まれている。また、排泄に関する報告の仕方などには特に注意を払い、日常の言葉使いなどでのプライバシーの大切さへの指導も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話から本人の思いや希望を把握し、自身の希望や決定に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆で体操を行ったり、外気浴を行ったりしているが本人の意思を尊重し無理強いせず好きな事をして過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容係を中心に身だしなみに注意し、不快感の無いよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温めるだけの調理なので調理参加はない。食事は盛り付けや片付けなど家事参加を促しオヤツ作りを企画して職員・入居者様が一緒に楽しみながらの支援をしている。	日常の食事のほか、誕生日にケーキや敬老会で郷土料理のイベント食などが振舞われている。食事形態は常食やソフト食が提供され、飲み物などはお茶だけにとらわれず、牛乳や乳酸飲料、珈琲、レモンイーなども出され、楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は食事提供会社の方でカロリーなどの計算はされている。個々摂取量に違いがあり少ない方には栄養補給のドリンクなど提供し水分摂取量が少ない方には種類を変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で口腔ケアを行える方にはお願いしている。介助が必要な方には歯間ブラシ・口腔スポンジを使用したり、洗口剤や義歯洗浄剤で清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄介助・誘導を行い自身で出来ることは行っていただくようにしているオムツ使用者に対し陰洗・清拭をしっかりと行い衛生面にも配慮している。	チェック票を活用した声掛け、誘導を基本にトイレでの排泄が維持できるよう支援が行われている。「こんな失敗して嫌だね」と落ち込む入居者には「大丈夫ですよ。これに変えましょう」とさりげなく話し、落ち込みを引きずらないようフォローされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し排泄介助・誘導を行い自身で出来ることは行っていただくようにしているオムツ使用者に対し陰洗・清拭をしっかりと行い衛生面にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	排泄チェック表を活用し排泄間隔の把握をし適時頓服の内服やセンナ茶提供・ヨーグルト提供などを行っている。	自立の入居者には浴室の外から見守り、自分で行うことはやっていただき、洗い残しを職員が手伝うよう支援をされている。脱衣時には体にタオルをかけ、羞恥心に配慮したり、肩に湯をかけながら歌を歌うなど入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて居室で臥床したりソファでお休みいただくなどしている。夜間帯は室温管理を行い気持ちよく入眠していただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認が出来るファイルや頓服の対応表を作成して各自が対応出来るようにしている。主治医・薬剤師と随時報告・連絡・相談をし適切な対応が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内の家事手伝いなどをお願いしたり各自でパズルや編み物、トランプや歌を歌うなど気分転換をしていただく時間はある。外気浴の時間は出来るだけ取るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で外出は出来ていない。新型コロナウイルス感染症の問題が無くなれば多くの外出機会を設けていきたい。	これまでは家族も一緒に鉄道博物館などに出かけるなど、非日常的なことができるよう支援をされていたが、現在は中に閉じこもらず、外気浴や散歩、体操などの活動がなされるよう取り組まれ、車を使った花見などのドライブ実施も検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理をしている入居者様は一部でほとんどの方は所持していない。以前は一緒に買い物に出かけその際使用することもあったが今年度は外出しなかったので使用していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・知人からの電話や手紙の取次は行っている。 携帯電話を所持されている方も居る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感が無いよう音や光・室温と配慮している。 季節に合わせてスタッフが入居者様と一緒にフロアの装飾なども行っている。	共用空間では入居者がそれぞれに合った役割に取り組み、お茶出しやテーブル拭き、おかずの盛り付けなどを手伝われている。それぞれの居場所も確保され、ソファでのんびり過ごされたり、フロアのモップかけ清掃を職員と一緒にを行う入居者もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全入居者様が集まる場所から少し離れた場所にソファを設置し一人で休むなど出来るようにしているし、希望があれば玄関先のベンチなど外気に当たりながら休んでいたこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきた家具を使用していたりご家族の写真を飾っていただいたり居心地良い居室環境作りに努めている。	居室にはこれまで馴染んできた家具やラジオ、携帯電話なども自由に持ち込まれ、それぞれの習慣に合わせた生活を楽しまれている。家族の協力で思い出の写真を飾り付けるなど、入居者が安心して居心地よく過ごされるよう支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様で理解出来るものの表示やADLを理解し必要な見守りを行いながらも出来る事は積極的に行っていただくように支援している。		

(別紙4(2))

事業所名:ふれあい多居夢浦和

目標達成計画

作成日: 令和 3年 4月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策に対し全職員が知識を持ち、地域の方々との連携も含め対応出来るようにする。	ホーム内での防災に対しての訓練勉強会での教育と、地域の防災訓練参加・地域の方々との協力体制を構築する。	①防災訓練と勉強会の実施。 ②地域やホームの防災訓練の参加。 ③地域住民との信頼関係の構築。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。